

Mariah Snyder からのメッセージ—看護独自の介入—

尾崎フサ子（佐久大学看護学部）

【略歴】 学歴：1965年国立東京第一病院附属看護学院卒業，1981年明治学院大学文学部英米文学科卒業，1983年ミネソタ大学看護学部看護学修士課程修了，2002年博士（医学）の学位授与（新潟大学）。職歴：1965年～1974年まで，国立東京第一病院（現．国立国際医療センター）就職．消化器外科，婦人科，内科，整形外科，脳外科，神経科に勤務．1968年～1970年ニューヨーク大学および Grace Hospital（デトロイト）で研修．

【要旨】 Dr. Snyder の著書「Independent Nursing Interventions」を手にした時，非常に新鮮な感動を覚えました．それは，新しい看護技術が書かれていたからではありません．日頃実践している看護が書いてあったからでした．例えば，痛いところをさする，しっかり患者の話に耳をかたむける，それ自体が看護だということです．本からはそれだけではありません．それぞれの介入に「背景」「定義」「科学的根拠」「介入」「技術」「効果の測定」「使用」「注意事項」さらに「研究課題」が記載されていることでした．日本のナースに自分たちの看護に自信を持ってもらいたく翻訳を思い立ち，出版しました．Independent Nursing Interventions（看護独自の介入）は第3版から Complementary Alternative Therapy in Nursing（看護における補完代替療法）となりました．

1999年新潟大学保健学科の4年課程設置時に，補完代替療法を看護療法と命名して演習および実習に取り入れました．演習は3年次前期に組み入れ，演習内容は最もベッドサイドで活用できると判断した項目を取り上げました（私見です）．それらは積極的傾聴，ナラティブ・アプローチ，回想療法，マッサージ，指圧，意図的タッチ，漸進的リラクセーションです．

演習後のAさんからは，「人の手ってすごいなあー」と言う感想やBさんの「看護療法演習は知っていて得する技術・知識が沢山……．知っていなくともナースとして働けると思いますが，この技術・知識は患者の精神的な面，患者理解にとっても役立つものとなると感じました．……」．

ここでは割愛させていただきますが，実習時にも学生は看護療法を活用したすばらしい看護体験をしていました．

私の看護教育は Independent Nursing Interventions（看護独自の介入）の1冊からはじまりました．